



弊社取締役 講演 刑事の人生 岡部逸雄 名細公民館で ①

12月 31, 2015 (<http://rainbow-net.saitama.jp/?p=1370>) / By MiyukiOkabe (<http://rainbow-net.saitama.jp/?author=2>) / Posted in: ライトアップ (<http://rainbow-net.saitama.jp/?cat=13>) / Tagged in: 岡部逸雄 埼玉県警 (<http://rainbow-net.saitama.jp/?tag=%e5%b2%a1%e9%83%a8%e9%80%b8%e9%9b%84%e3%80%80%e5%9f%bc%e7%8e%89%e7%9c%8c%e8%ad%a6>)



(<http://rainbow-net.saitama.jp/?p=1370&print=print>)

地域で、新しい絆をつくるべく熱心な公民館活動をされている「男のゆうゆう塾」（齊藤誠代表）。この塾の12月19日講座の講師を弊社取締役 岡部逸雄が依頼され、約90分にわたる講演とその後の質疑応答で、自分の警察人生を語りつつ防犯や地域への思いが語られた。2015年をしめくくる記事として3回にわたってアップする。

1 警察官になるまで

本日、男のゆうゆう塾で講演できるご縁は、この代表齊藤誠さんが、妻が出版サポートした「川越100の顔」の取材で齊藤誠さんと出会ったことがきっかけ。「川越100の顔」は現在でも蔵造りのまちなみの中の太陽堂さんの店頭に並んでいますので、ぜひ、よろしくお願いします。（笑）

刑事を長くやっていき、大勢の人の前で話すことはあまりなかった。取調室で「被疑者（犯人）を落とす！」ということを使命に生きてきたのでどれだけ今日うまくいくかわからない。（西入間署勤務のとき地域の中学校で「警察の仕事と使命感」と講演した、それ以来の出来事でちょっと緊張（汗））。

私の故郷は秋田県男鹿半島の先、バスケットと秋田杉で有名な能代市。農家の長男に生まれ、農業を継ぐつもりで地元の農業高校に進んだ。しかし、父から「将来農業で食べていくことは難しい。兼業農家であっても手に職を」と進言され、親戚の大工のもとで、修行。埼玉県飯能市で新設の幼稚園の建築で初仕事。しかし、自分に合っているかどうか逡巡。秋田に戻った時、自衛官や警察官として働いたらという母の知り合いからの勧めもあり、大工を断念。好きなバイクに乗れる「白バイ」いいな！という気持ちで警察官採用試験に挑戦。警視庁、神奈川県警、千葉県警、埼玉県警、という選択肢の中、飯能の緑や風景を思い出し埼玉県警の試験を受けた。秋田県立能代農業高校卒業、半年後のことだった。

採用試験にパス、警察学校で学んだあと初任地は川越署本川越交番だった。昭和50年10月、制服に身を包んだ地域警察官としてのスタート。当時の本川越の駅舎は木造。駅の周りにはケーキ屋さん、お茶屋さんなど。先輩と一緒に自転車に乗って、警らをして管内をぐるぐる巡回。静かな時代でもあった。



(http://rainbow-net.saitama.jp/wp-content/uploads/2015/12/IMG_0658.jpg)



名細公民館 男のゆうゆう塾で弊社取締役 岡部逸雄講演 2

12月 31, 2015 (<http://rainbow-net.saitama.jp/?p=1375>) / By MiyukiOkabe (<http://rainbow-net.saitama.jp/?author=2>) / Posted in: ライトアップ (<http://rainbow-net.saitama.jp/?cat=13>) / Tagged in: 岡部逸雄 埼玉県警 (<http://rainbow-net.saitama.jp/?tag=%e5%b2%a1%e9%83%a8%e9%80%b8%e9%9b%84%e3%80%80%e5%9f%bc%e7%8e%89%e7%9c%8c%e8%ad%a6>)



([http://rainbow-net.saitama.jp/?](http://rainbow-net.saitama.jp/?p=1375&print=print)

[p=1375&print=print](http://rainbow-net.saitama.jp/?p=1375&print=print))

白バイ・成田闘争警備・そして刑事へ。

川越警察署勤務から、白バイ隊員を志願。荒川河川敷で大きなバイクを使っでの訓練。指導官がとても厳しく「下手な運転をすると死ぬぞ！」その指導官の大きな声が今でも印象的だ。サイレンを鳴らす緊急走行や取り締まりができる白バイ検定をパス。念願の白バイ隊員となった。身分は関東管区機動隊に所属。

昭和52年から54年は成田闘争警備にあたり、極左のデモ隊と競り合った。一番つらかったのは三日寝ずの警備。72時間通しというのは大変だった。その警備が終わり大人数の隊員で風呂にはいると若い警官の汗でお湯はドロドロに。それだけ過酷な現場であった。

関東管区機動隊は埼玉、群馬、新潟、栃木、神奈川、静岡、山梨、茨城、千葉の県警で成りたっており、他県の警察官と一緒に仕事ができることは貴重な体験だった。

白バイ隊員として得たものは上下関係の厳しさ。先輩の白バイだけではなく、長靴、冬になると皮の上下の制服をピカピカに磨くことから教えられた。それでも先輩からの指導は「いじめ」ではない。最終的な責任は先輩が後輩の分まで持つ、面倒をみるといったことを日々学んでいった。

自分が担当したのは通称浦所バイパス、国道463号。アパッチというアメリカの原住民アパッチが砦から敵をみる言葉をもじった作戦で速度超過などの車を取り締まった。訓練で学んだ運転手の死角にはいり、厳しく違反車両を取り締まった。しかし、取り締まりをしていくなかで、違反者は過失が多いということにも気がついてきた。（違反したくてやっているのではない。ほんの気の緩みが大半）取り締まりも事故防止のためのもの。善良な市民との取り締まりを通じてのやりとりの中でいろいろな想いも錯綜した。（違反切符をきられても反抗的な人は本当にひと握りだった）。汗と泥と盾の成田闘争警備と小石の飛散と排ガスとの戦いの白バイ隊員から、次なる舞台の希望をきかれつ時期となった。交通機動隊で白バイ続行か、それとも機動捜査隊にはいつて刑事の道か。思案のすえ、白バイは若い時だけ？歳を重ねてもできる「刑事」の道、機動捜査隊を希望した。



(<http://rainbow-net.saitama.jp/wp-content/uploads/2015/12/DSC01752-2.jpg>)



埼玉県警を誇りに 弊社取締役岡部逸雄 講演 3

12月 31, 2015 (<http://rainbow-net.saitama.jp/?p=1378>) / By MiyukiOkabe (<http://rainbow-net.saitama.jp/?author=2>) / Posted in: ライトアップ (<http://rainbow-net.saitama.jp/?cat=13>) / Tagged in: 埼玉県警 岡部逸雄 (<http://rainbow-net.saitama.jp/?tag=%e5%9f%bc%e7%8e%89%e7%9c%8c%e8%ad%a6%e3%80%80%e5%b2%a1%e9%83%a8%e9%80%b8%e9%9b%84>)



([http://rainbow-net.saitama.jp/?](http://rainbow-net.saitama.jp/?p=1378&print=print)

[p=1378&print=print](http://rainbow-net.saitama.jp/?p=1378&print=print))

機動捜査隊・捜査一課・組織力で事件解決

機動捜査隊は24時間勤務となる。事件発生とともに現場に急行する刑事の花形。犯人を追尾したり関係者から話を聞いたりする。在籍当時は夫婦の争いごととはなだめて円満解決という形であったが、現在は奥さんの言い分でDV・逮捕に、女性が守られる時代になった。

十年いた機動捜査隊では警察人生の中でただ一度ナイフをもった住居侵入犯と格闘。スーツのズボンに切れ「死」を身近に感じた。まさにテレビドラマそのものでその事件は大きく新聞に取り上げられた。

刑事部・捜査一課は殺人、放火、強盗、強姦、強制わいせつ、立てこもり、誘拐、医療過誤など。捜査二課は詐欺、知能犯、選挙違反、捜査三課は窃盗、泥棒、空き巣、捜査四課は暴力団担当とわかれている。

自分が在籍した頃の捜査一課は100名前後。(人によっては選ばれしエリートセレクトワンという矜持を持っていた)7名が1チームとなって班編成。殺人事件が発生し、捜査本部が立ちあがる。そ

こには担当班をはじめ、所轄警察を含めて百人以上の体制。被害者対策、地域の聞きこみ担当、被害者の交友関係、防犯カメラの解析、携帯電話のデータ解明など各分野にわかれて捜査をしていく。捜査本部には、刑事部長、刑事部参事官、捜査一課長、管理官、調査官、主任官、所轄署長がずらりと並ぶ。捜査員の中から私が担当させてもらった取調官は警部補以上。巡査部長のとき、先輩の取調べを学び、懐深く被疑者の心の中に入っていかなければ「自供」を導くことはできないと肝も銘じていた。

運よく、いくつかの殺人事件捜査本部の取調官を担当させてもらった。百人を超える捜査本部の中で取調官はたったの一名。それでも、チームで動いているので、一人でやっているという気持ちを一度も抱いたことがない。すべて、そこにいる捜査員のおかげ。一人一人の捜査員も「自供がなくても立件するぞ」という気概をもって証拠を集め万全の捜査をしているから。多くの仲間が足と気合いで稼いだ証拠を持って被疑者と向き合う。被疑者の生まれ育ち、家庭環境を徹底的に調べその心へはいつていく。どんな地域で生まれ、どんな学校で学び、どんな生活をしてきたか。こちらが裸になってうちとけていかないと被疑者の心を開くことはできないし、心情を話してはくれない。被疑者の思考をこちらで推理、推察していく。被疑者の口を開かせることができる刑事でなければ取調官にはなれない。被疑者を完全に落とさなければ（自供をとることができなければ）捜査員すべての努力が無駄になってしまう。大きなプレッシャーだ。

「落としの岡部」といわれてどう被疑者と対峙しどう落としていくか。被疑者によって生き方、考え方も違う。取り調べ方法もその都度変えなければならない。その重圧を乗り越え、被疑者を自供へ導き、逮捕、事件解決。この結果はすべての捜査員の努力あってこそといつも思っていた。「俺がやった」なんて態度が見えれば、仲間である捜査員から協力を得ることはできない。事件を明らかにするため捜査本部一丸となって、捜査員一生懸命になって、その結果の事件解決でもある。

被疑者ではない関係者の事情聴取を巡査部長の時に担当した。その人のノドの乾く様子や、動揺した雰囲気を見逃さず上司に報告した。上司からはそのまま続行して調べるように指示があり、結果その人間が真犯人だったということもあった。巡査部長であったが、取調官の実質的なスタートとなった。

捜査一課在籍時代は、浦和の囑託殺人、浦和のドンキホーテ放火殺人事件、大宮資産家女性死体なき殺人事件、吉見町ラーメン店主殺人事件、吉見町父親殺人事件、川越たてこもり事件、婚活詐欺連続殺人事件などを担当。一捜査員であったり、取調官であったり立場が違って事件ごとに思い出がある。重要犯罪については被疑者取り調べについて「可視化」への移行がはじまった頃で、おそらく埼玉県警で取り調べ時の録音は自分が初めてだったと思う。

取調室で。被疑者には常に敬称をつけて対峙した。〇〇さんと。一方「事実の一つ」「被害者を思え」ということを念頭に被疑者を攻めていった。理詰めで追い詰めるのではなく、被疑者に心の隙、逃げ道を与えながら心の中を暴き、自供へ導いた。取調室は戦いの場、自分の城でもあった。被疑者を入室させ、しぐさを見て心境の変化があるかどうかなど細部にわたって観察する。しゃべりすぎる人は刑事として向かないと思う。被疑者しか知りえないことを言わせるテクニックとしては、重要なことを聞き流しながら、聞きだす。聞く立場を貫いていった。被疑者が「岡部さんになら話す」という気持ちにさせることが大切だ。

今の警察官。どうもサラリーマン化している気がする。刑事に引き上げたい優秀な若手がいても「刑事は3K。きつい、厳しい、汚い（孤独死、自殺体、列車轢死体すべて扱う）で休みがない」という理由で志願してくれないのも現状。制服の地域警察官は三交代で勤務当日宿直、翌日は勤務明けで帰宅、その翌日は指定休というサイクル。この仕事を希望する人が多い。OBとしては県民の視点にたって使命感に燃える刑事が一人でも多く育成されることを願っている。

川越署管内、被害が多い、自己防衛をしてほしい。特に振り込め詐欺被害、昨年2014年中は3億円以上、今年2015年1月から10月の間でも2億円以上という莫大な金額。留守番電話の活用などで、被害にあわないように。川越署生活安全課では相談窓口も設けているので利用してほしい。

最後に。百姓ひとすじの両親、この親が埼玉に出してくれたからこそ自分の四十年の警察官人生を全うすることができた。いくつになっても自分はその親を超えることはできない。今後は、住んで三十年の愛する川越のため、地域社会のため、川越市民のため自分の培った経験を捧げたい。家庭、学校、地域で、犯罪防止や防犯対策、ケースに応じて相談にのっていきたいと思っている。

今日は本当にありがとうございました。 岡部逸雄

このあと参加者全員からの質問に答えて、「男のゆうゆう塾」講演は終了した。



(<http://rainbow-net.saitama.jp/wp-content/uploads/2015/12/DSC01747-2.jpg>)

(<http://rainbow-net.saitama.jp/?p=1375>)

(<http://rainbow-net.saitama.jp/?p=1381>)